

◆事業名 : 学習支援ボランティア事業 (ひとり親家庭の子ども「心と学び」のサポート事業)

◆奈良県 (健康福祉部こども・女性局 こども家庭課)

◆キーワード : 『マンツーマン』

◆事業ポイント

○マンツーマンによる学習支援方式で対象年齢が広い。

○教師 OB を中心に活動、学生ボランティアへの指導を効果的に実施。

○学力向上よりも学習に対する意欲や学習習慣を身に着けることを目標とした支援。

◆事業の概要

項目	内容
①世帯数・面積	580,784 世帯 (H27 年 2 月 1 日現在)、3,691 km ²
②児童扶養手当受給者数	12,375 人 (H26 年 10 月 31 日現在) 福祉行政報告例
③開始時期	平成 24 年 4 月 1 日
④対象年齢	未就学、小学生、中学生、高校生、ひとり親本人
⑤事業対象の要件等	県内在住ひとり親家庭の児童 (小学生～高校生、所得制限無) 及び親
⑥実施体制	委託 (特定非営利活動法人 宙塾、公募型プロポーザルで選定)
⑦スタッフ	委託先の 2 名 (指導方法の検討やボランティアの指導・調整を行う統括的担当者と事務的なことをはじめ幅広く対応する担当者)
⑧事業形態	教室方式
⑨事業内容	マンツーマン方式での学習支援、母子会が会場運営をサポート
⑩実施場所	4 か所 (送迎は無し)
⑪実施頻度	・大和郡山市社会福祉会館 : 毎週月曜日 17:00~20:30 ・大和郡山市立矢田南小学校 : 毎週火曜日 16:00~17:30 ・香芝市総合福祉センター : 毎週土曜日 14:00~16:30 ・奈良市佐保川ふれあい会館 : 毎週水曜日 16:30~18:30
⑫ボランティア登録数	52 人 (学生 : 21 人、教師 OB : 23 人、社会人 : 8 人)
⑬児童数	59 人 (未就学 : 4 人、小学生 : 38 人、中学生 : 13 人、高校生 : 3 人、その他 : 1 人 (ひとり親本人))
⑭事業費 (H26 年度)	4,563,000 円 (教室 5 か所を想定した予算) 人件費 (コーディネーター等)、賃借料 (会場借り上げ、パソコン使用料)、旅費 (ボランティア派遣)、教材費、印刷製本費 (募集チラシ等)、消耗品費 (文具類)、通信運搬費 (電話料金)

◆事業経緯

学習支援ボランティア事業は、平成 24 年度から県のモデル事業として実施。平成 23 年度以前から地域の母子会が学習支援を独自に行っていたことが事業のベースとなっている。

平成 24 年度、25 年度は、県の母子福祉連合会を委託先として事業を実施したが、平成 26 年度からは、公募型プロポーザルにより現在の NPO 法人「宙塾」を選定し事業を実施している。

母子福祉連合会は、平成 26 年度も当事業につ

いて会場運営等をサポートしている。

母子福祉団体と委託先の役割分担は以下の通り。

[母子福祉連合会]

生徒の募集及び会場の管理 (毎回、地域の母子会の母親が会場の管理・サポートに 2~3 人来ています)

[委託先]

学習ボランティア支援全般の運営・管理業務。

◆具体的な事業内容

[事業対象者]

事業の対象者は、県内在住のひとり親家庭の児童で、未就学児童から高校生、ひとり親本人までを対象としている。

未就学の子どもに対しても初歩的なことを教えているが、その多くは小学生で参加している子ども兄弟（姉妹）である。

当事業においては、所得制限は設けていない。

[教室方式]

従来、母子会によって学習支援ボランティアの素地があったのは「大和郡山市」と「香芝市」で、奈良市は、平成 26 年度から奈良市と共に県が一から掘り起こしたエリアである。

県としては、新たな教室の設置に際して、児童扶養手当受給者の多い地区を選定したいという考えがあり、今年度新たに奈良市を選定した。

奈良市に対しては、会場の選定・貸出しについて協力してもらったが、具体的な参加者募集については、自治会と調整している（奈良市には母子福祉団体の地区組織がないため）。

[教室風景]



出典：奈良県

[学習科目]

- ・未就学：ひらがな、鉛筆の持ち方、数の認識
- ・小学生：国語、算数 が中心
- ・中学生：国語、数学、理科、社会
- ・高校生：国語、数学、化学、物理、歴史等
- ・親：日本語

高校生は、理系のボランティア（教員 OB）がいるので、高度な科目も問題は無い。

[送迎]

現状は行っていない。

会場によって若干異なるが、多くの教室は、居住地が近いので送迎がなくても問題はない。

[利用料]

利用料は徴収していない。

◆支援内容

[学習指導]

基本的にボランティアと生徒の 1 : 1 での支援が基本となっている。

児童が学習に集中できるよう、年齢等により学習に集中することが難しい児童と学習に意欲的な児童とで学習時間や部屋を分けている。

落ち着きのない子どもに対しては、まずは、座って自分な好きな事に集中する（学習ではなく）ことが大きな目標でもある。

ボランティアは、担当する子どもの学習記録を個別に付け、学習目標や今日できたこと、課題点などをその都度書き込んで、これを各教室のボランティアリーダーが管理しながらボランティアへの指導や情報共有に役立てている。

[ボランティアと生徒の比率]

現状、ボランティアと生徒は 1 : 1 となっている。

NPO によると、学習習慣が身につけていない子どもには 1 : 2 が限度で、1 : 3 になると、収拾がつかなくなるとしている。

マンツーマン方式では、適性を見ながらメインのボランティアを決めている。ただし、ボランティアの都合や多様な先生からの教え方に慣れるという点で、特定のボランティアと生徒を固定してはいない。

[マンツーマンの支援状況]



出典：奈良県

[進路相談]

中学3年生(受験生)については、母親と直接話す機会を設けて、進路の相談をするとともに、生徒に対して受験に対するアドバイスなどを行っている。

また、中学2年生の母親や小学3年生の母親から受験に対する相談があり、個別にアドバイスをしているほか、高校生からは、就職に関する相談も受けている。

[教材]

教材は、「学校の教科書」や「市販のドリル」の他、オリジナル教材も使っている。

オリジナルの教材は、算数や理科等で使っている。例えば、「重さを理解するゴム製の手作り教材」、「色を利用して九九を覚える教材」などで、教師OBが過去に学校で使った手作りものが多い。

こうした自作教材の活用は、学生ボランティアの指導にも効果的である。

[手作り独自教材]



出典：ヒアリング時に撮影

[その他]

最初の頃は、落ち着いて座ることができない子どもも多かったため、カードゲームなど子どもの興味のあることを行い、長い時間座ってもらうことを目標とし、順次、学習へとステップアップしている。

◆事業実施体制

事業は、NPO法人「宙塾」に委託している。「宙塾」は、不登校児童などへの学習支援を10年以上行っている団体で、教員OBとのネットワークが強いのが特徴である。

現状は、指導方法の検討やボランティアの指導・調整を行う統括的担当者と、事務的なことをはじめ幅広く対応する担当者の2名体制である。

また、これまで事業を委託されてきた母子福祉連合会も会場運営や生徒の募集といったことで当事業をサポートしている。

◆ボランティアの確保・養成

ボランティア登録人数は、現状52人である(平成25年度は41人)。

増加の要因は、平成26年度はNPOへ委託したことと、奈良市に新たに教室を設置したためと考えている。

ボランティアの内訳は、学生21人、教師OB23人、社会人8人で、教師OBは、一般の教師OBが13人、退職女教師の会から10人、社会人は、退職した人等である。

ボランティアは、特に偏ることはないが、NPOのネットワークを使って、教師OBを集めたこともあって、現状は教師OBの比率が高い。

[ボランティアの募集]

ボランティアの募集は、主に委託先が行っており、大学での募集案内やホームページ、新聞等への掲載が中心である。また、NPOの人脈で教師OBを募集している。

学生ボランティアについては、大学のボランティアセンターへ打診をして、希望者全員に対して当事業の説明や難しさを説明、個別に委託先のコーディネーターが面談をした上で採用する。

委託先によると、ある程度、こうした事業を理解しており、意識の高い人でないと続けるのは難しいとしている。

学生ボランティアの場合は、教える技術や経験が浅いことから、教師 OB から随時、教えてもらいながらスキルアップを図っている。

[協力大学等]

ボランティア協力は、県内大学の学生や委託先の人脈を通じた教師 OB などとなっている。

◆参加者の募集

現状は、地域の母子会などを通じての募集である。

また、学習方法として、できるだけマンツーマンで実施する方針のため、一気に参加者が増えると効果的な学習ができなくなるという委託先の考えもあり、参加者は徐々に増やしていく考えである。

◆事業の実績

現状の参加者は、59 人（未就学：4 人、小学生：38 人、中学生：13 人、高校生：3 人、その他：1 人（ひとり親本人）で、平成 25 年度の 41 人に比べると増加している。

定員は特に定めてはいないが、概ね 40 人を目安としている（未就学：5 人、小学生：20 人、中学生：10 人、高校生：5 人）。

小学生の参加者数が多いのが特徴である。

[学習参加状況]

出席率は、小学生、高校生が 7 割を超えているのに対して、中学生は 50%程度である。

中学生の出席率が低いのは、部活の影響と考えている。

小学生は、1~4 年生が多く、5・6 年生の高学年が少ない（高学年は、精神的に不安定なためではないかと NPO では分析している）。

出席率アップのための工夫として、出席スタンプを作り、参加児童がスタンプが多くなること楽しみにさせている。また、久しぶりに来た児童には「頑張って来たね」などの声掛けをしている。

児童に対しては、とにかく楽しみを持ってきてもらうこと、来たら楽しいと思える事に取り組むこと、集中して座ること、といった学習の前段階の状況までもっていくことが大事であると考えており、スタンプなどもこうしたことへの工夫である。

◆事業立ち上げに関して

[教室等場所の確保]

教室の確保に関しては、市町村や地域の母子会との調整により確保したが、従前より、母子福祉連合会が実施していたこと、平成 26 年度から新たに委託を受けた委託先も不登校児等の学習支援を行ってきたことから立ち上げはスムーズであった。

また、新たに県が新設した奈良市の教室も市の協力によりスムーズに確保できた。

[庁内の調整]

県のモデルケースとして事業を実施し、県全体に波及することを目指して、平成 24 年度から実施しているが、今後、各自治体に波及させていくには、ボランティアの確保に加えて、地域の意識の高まりが必要と考えている。

特に、推進役として期待しているのが地区の母子会であるが、母子会は近年高齢化が進んでいるため、生徒募集や事業サポートといった点で難しい面もある。そのため、地域の社会福祉協議会等との連携も重要となる。

◆事業の効果

事業の効果として、「学力の向上」、「学習習慣の定着」、「学習意欲の向上」が見られる。

委託先によれば、ひとり親の子どもは、生活が厳しい家庭が多く、親も精神的に疲れているのを分かっているため、こうした事業に参加することで、少しでも親の負担を楽にするという意味合いと、子ども自身の学習習慣の基礎を作るという点で重要な事業と考えている。

現状のように、週 1 回では、学習する（学ぶ）という段階まで行かないことから、小学生のうち、「宿題ができる」とか、「座って先生とお話しができる」ということが目標と考えている。

◆当事業への意見や考え方

【本人】

『今までまったく解けなかった問題が解けるようになってうれしい』（郡山教室中3女子）

【親】

『佐保川教室 若いボランティアの先生に遊んでもらえて、行くことを楽しみにしています』

【委託先】

心のケア、学習支援、進路相談と多岐にわたりケアを必要とする仕事なので、学生や教師経験のないボランティアの指導には特に配慮が必要である。

教室終了後に学習支援ボランティアの報告・反省会及び指導上の注意など話合いの機会を作っており、今後も内容の充実を図るため指導・研修を行っていきたい。

学生ボランティアの育成や情報共有については、時間の合間にボランティアが集まってミーティングを行い、個別の生徒や教え方等について随時話し合っている。

【ボランティア】

- 学生ボランティア
児童への指導等を教師OBなどから受けることができ、大変参考になる。
- 退職者教師ボランティア
大変必要性の高い重要な事業であり、どれだけやってもやりきれないが、各教室の生徒の状況を見て、それぞれの生徒に必要な支援を話し合い、きめ細かに接していきたい。

◆現状の課題

当事業は、子どもによって必要なサポートの内容が異なるのが特徴であるため、子どもの性格や学習状況等を講師間で情報交換し、対策を検討するとともに、学生ボランティアを指導していくことが大切である。

ただし、現状では、参加児童と学習ボランティアの人数調整が難しい。

ボランティアの確保が難しいこともあり、教室を増やすことや開催回数を増やすことは難しい。

現状は、既に近隣の子どもが多数参加していることから、大々的に募集して対応できるボランティアが無いのが実情である。

◆今後の目標

現在、県のモデル事業として4か所で実施しているが、地域に密着した学習支援を市町村レベルに拡大していくことを目標としている。

◆実施要綱

ひとり親家庭の子ども「心と学び」のサポート事業実施要綱	
第1 目的	母子家庭、父子家庭（以下「ひとり親家庭」という。）の児童に対し、学習支援や進学相談を行うことにより、学習習慣や生活習慣を身につけさせ、基礎的な学力の向上を図るとともに、悩み相談等による心のケアを行うことで不安感を解消し、本人の自立につなげることを目的とする。
第2 実施主体	実施主体は奈良県とし、効果的な事業の実施が期待できる団体（以下「受託事業者」という）に事業委託を行うことにより実施する。
第3 対象者	ひとり親家庭の概ね小学生から高校生までを対象とする。
第4 事業内容	大学生等のボランティア（以下「学習支援ボランティア」という。）を実施会場に派遣し、ひとり親家庭の児童の学習を支援するとともに、親との離別経験や将来の不安、親への気遣い等ひとり親家庭の児童が持つ特有の悩みに対する心のケアを実施する。
第5 事業実施方法等	実施方法は、次に掲げるとおりとする。 (1) コーディネーターの配置 受託事業者は、本事業の実施に当たり、学習支援ボランティアの募集・選定、教材の作成、派遣調整等の管理を行うコーディネーターを配置すること。 (2) 名簿等の作成 本事業の実施に当たっては、あらかじめ、参加を希望するひとり親家庭の申請（様式1）により登録する参加者名簿（様式2）、登録児童ごとの学習支援等の状況を記載する支援記録票（様式3）及び学習支援ボランティアとして選定された者を登録する学習支援ボランティア名簿（様式4）を作成し、受託事業者は名簿等の適正な管理等に努めること。 (3) 学習支援ボランティアの募集及び登録等 ア 事業実施主体等は、学習支援ボランティアの募集について、近隣の大学等の協力を求めること。 イ 学習支援ボランティアは、ひとり親家庭の児童等の福祉の向上に理解と熱意を有すると認められる者であって、児童に対して適切な学習支援ができる者を選定し、名簿に登録すること。 なお、必要に応じ、学習支援ボランティアに対し、ひとり親家庭の児童に対する学習支援に係る研修を実施すること。 ウ 名簿への登録の際には、支援可能な教科や学年等必要な内容も併せて登録すること。
(4) その他	ア 学習支援ボランティアは、児童に対し懇切な学習支援に努めるとともに、児童の良き理解者として進捗相談等に応じること。 イ 実施時間、日数及び頻度等は、児童の状況を勘案して決定すること。 ウ 学習支援ボランティアは、活動状況について、派遣のつど受託事業者に報告すること。 エ 学習支援ボランティアその他当該事業の関係者は、相談内容等について、秘密保持に十分配慮すること。 オ 受託事業者は、運営状況等について、奈良県の求めに応じ報告することとする。
第6 関係機関との連携等	奈良県は、この事業を実施するに当たっては、あらかじめ、ひとり親家庭等に対し、事業の趣旨の徹底を図るとともに、常に母子自立支援員、民生委員、児童委員、母子福祉団体、母子生活支援施設及び福祉事務所等の関係機関との連携を密にするものとする。
附 則	この要綱は、平成26年4月1日から施行する。

出典：奈良県

◆ボランティア募集 (チラシ)

学習ボランティア募集

ひとり親家庭の児童の学習支援

●主な活動：学校授業の補習などの教育支援
子どもの悩みや相談の対応

●会場・時間と対象児童 くいづれかに参加できる方>

① 場所：大和郡山市 社会福祉会館<大和郡山市榎橋町3-8> 日時：毎週月曜日 17:00~20:30 対象：小学生~高校生 備考：中学生に数学・理科の指導が可能な方歓迎
② 場所：大和郡山市立矢田南小学校<大和郡山市山田町83> 日時：毎週火曜日 15:30~17:00 対象：小学生 備考：教員OBの参加あり、学校都合による休みがあります
③ 場所：香芝市 総合福祉センター<香芝市逢坂1-374-1> 日時：毎週土曜日 14:00~17:00 対象：小学生~中学生 備考：教員OBの参加あり
④ 場所：奈良市 佐保川ふれあい会館<奈良市法蓮町391-4> 日時：毎週水曜日 16:30~18:30 対象：小学生~高校生 備考：教員OBの参加あり

●交通費支給、ボランティア保険加入

●実施者：奈良県(こども家庭課)、特定非営利活動法人 宙塾

●ボランティア登録方法 指定の用紙(裏面)にて下記まで提出してください。
申込先 特定非営利活動法人 宙塾

TEL 0742-93-4788 FAX 0742-93-4785
メールアドレス ohzora_juku@gmail.com
申込み・お問い合わせは、郵送・FAX・メールにてお願いします

◆新聞記事

産経新聞 H26.8.28



勉強を通じて子供たちと交流する学習支援ボランティア

県は、ひとり親帯の子供を対象に無料で学習指導や悩み相談に応じる「学習支援ボランティア」を募集している。県内では平成24年度から、小学生から高校生を対象にした学習教員が4カ所で開催されているが、ボランティアは常時不足がちなため、担当者は「子供の学習と心のサポートをしたい」という方向で応募してほしいと訴えている。

ひとり親世帯の子支援を

学習指導や悩み相談 県がボランティア募集

県内の教員は、大和郡山市の社会福祉会館と同市立矢田南小学校、香芝市の市総合福祉センター、奈良市の市佐保川ふれあい会館の4カ所。午後2時~8時に1度、午後8時~8時半に小学生から高校生を対象に、ボランティアが学習指導や悩み相談に対応している。

22年の国民生活基礎調査によると、平均的な所得の半分を下回る人の割合を示す「相対的貧困率」は国全体で16%だったが、「ひとり親世帯」ではこれが50.8%と跳ね上がり、「子供の貧困」の大きな要因と指摘されている。

県内では、22年の国勢調査から推計されるひとり親世帯は約1万4千世帯で、全体の約2.6%。県によると、要因の多岐にわたるが、家庭内暴力を受け別居や離婚に至ったケースも少なくない。

現在、県の学習支援ボランティアとして活動しているのは、小学校や中学校などの元教諭のほか大学生、NPO法人など、ある程度指導している大学生の伊藤朋乃さん(19)は「子供が好きで、『同僚役に立てれば』と始めた。勉強に集中させるのは難しいけど、楽しい。子供たちのお姉さんになれば」と話しく、教室に通う小学1年の女児(仮名)「お姉さんとの勉強やお話は楽しく」と笑顔で話していた。

ボランティアには交通費が支給されるほか、活動でのがちを保障するボランティア保険にも加入。県は「誘致もボランティアが足りず、一人でも多くの人に応募してもらいたい」。

問い合わせは県(こども家庭課家庭福祉係)074-227-8607(8)。

出典：奈良県

学習ボランティア申込書

フリガナ				性別	男・女
氏名				どちらかに○	
生年月日・年齢	昭和・平成	年	月	日(満)	歳
現住所	〒				
電話番号	固定電話				
	携帯番号				
e-mail	パソコン				
	携帯電話				
所属校	大学(院)	学部・専攻	学年		
職歴・経歴	(記入例) 教職員歴30年 中学校理科				
希望場所 (複数ある場合はすべて記入下さい。)	1 郡山市社会福祉会館		2 矢田南小学校		
	3 香芝市総合福祉センター		4 奈良市佐保川ふれあい会館		
備考 (得意な教科、又は苦手な教科等あれば記入ください)					
会場までの交通手段	1 徒歩	2 電車	3 自転車	4 バイク	5 その他()

※必要事項をご記入のうえ、下記連絡先まで郵送又はFAXしてください。
※奈良県こども家庭課・NPO法人宙塾のHPからの申し込みも可能です。
(連絡先) 〒630-8442 奈良市北永井町12-1

おねぞら じゅく
特定非営利活動法人 宙塾
FAX 0742-93-4785

出典：宙塾